

児童の
集団の
構成

宮地 忠雄

一、児童集団の調査

昨年三月号の本誌で従来の学級経営と全くその趣きを異にした協力学級経営の実際について発表したところ、二、三の読者から注目され、中には、わざわざ来校されてその実際について検討されるということまであった。

二年間の継続的な実験によって

◇ 二人(男女)の学級担任(一年より持ちあがり)と四名の教科担任(二年になって二名交代)の協力によって、二個学級(児童数計九十四名―二名退学)の経営において、

・ 対立した学級意識が全然認められない。―教師児童ならびに保護者において―前号において述べたように、二人の学級担任は協力して二個学級の教育に当たるとともに、一カ月交代で一、二組の学級事務の処理に当たっている。また教科の学習指導については、一人は国語、社会、一人は算数、理科を分担し、また協力して体育指導に当たっているので、教師にはいうまでもなく、「これが自分の学級」という意識は全然ない。九十四名の児童の担任者としての意識が最初から形成されている。

・ 知識、能力、態度といった面における学級差が認められない。―四月と十月、年二回に涉って組がえを行い、二個学級間の能力差をなくするように計画している。

・ 保護者会等はすべて学年集会の形式で行われるとともに、児童の誕生会、発表会、球技会、遠足、社会見学等、すべて学級の枠をはずして学年教育の立場で行われているので、児童にも、保護者に

も固定した学級の意識がない。

・児童は多くの教師の個性に接触することができるので、単一学級担任制に見られるような、教師の人格の直接的影響が学級を支配するといった傾向は認められない。児童は非常に自由で伸び伸びとしていて明るい。また二人の担任の眼で守られているので、落伍者とか、認められない児童とかといった者の発生が最小限に限りめられている。

・児童の交友関係が広い。

等々のことが明確にとらえることができるようになったが、

◇一カ年に二回に渉る組がえが、児童の自然的集団構成に対して+か-か問題とされるようになった。

それは、一、二の保護者から「組がえの前までは、家の子は、Bさんとよく遊びましたが、近頃はさっぱり遊びません」とか「組がえがあって、Aさんと遊びにくくなったと家の子はっています」等々といった声を聞いたからである。(男子の保護者)われわれは、組がえを、学級内の共同機の座席変更(班がえといっている)程度のものに意識させたいと考えていたが、組がえによって大きく交友関係が支配されるということでは、

・二個学級による交友関係学級単位にしばられている。

・形式面では、学級差や、対立はないように見られるが、児童の形成する自然集団では、明らかに、学級による区別が発生している。

もしこれが事実とすれば、協力学級経営というものは、教師の立場から見れば、良いように見られるが、児童の自然の成長や社会性

の発達に「^{マイナス}」になっていると判断せざるを得ない。一、二の保護者の声が全体の傾向として見られるものか、それとも、或特定の児童の特定の時期にだけ見られた現象だったのか、調査をして見ようということになった。

二、調査の方法

◇ 調査のねらい

- 1 一、二組の児童の交友関係や、その他の自然的な集団形成に、学級の意識がどの程度影響を与えているか。
- 2 個々の児童は九十四名(男、女)の集団で、どのような位置を占めているか。
- 3 個々の児童の結びつきや、小集団が、どのように全体集団の中に分布しているか。

◇ 調査方法

つぎのような質問紙を与え、それぞれ三名ずつ記入させた。

(ゲスフーテスト)

- ・あなたは、あなたのおたんじょう日に、二年のともだちで、だれをおよびたいですか。
- ・あなたは、おきょうしつのおそうじのとき、だれと、いっしょにしたいですか。
- ・あなたは、えんそくのとき、だれといっしょに、おべんとうを、たべたいですか。
- ・あなたは、こんどのじちいいんに、だれをせんきょしたいですか。

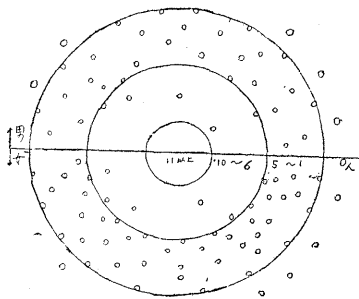
◇ 結果の処理

- 各項目毎につきのようない覧表を作り、
 ・だれが、だれを選択しているかその相互関係。
 ・だれが多く選択されているか。
 ・一、二組の関係、男女の相関を
 ます、とらえて見た。

被選択児 選択児	被選択児										
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	a
A	○							○			
B		○									
C			○								
D				○							
E					○						
F						○					
G							○				
H								○			
I									○		
J										○	
a											○
計	6	6	5	5	4	2	5	4	3	6	2

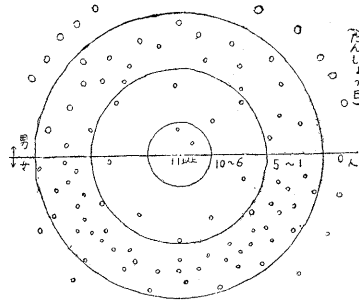
つぎに、図のような円形座表に、それぞれの児童の位置を表現してみた。(選択、被選択の関係は、非常に複雑になるので略す。)

この表は、
 だれにも選択されていない児童は、円の外側に、多くの児童から

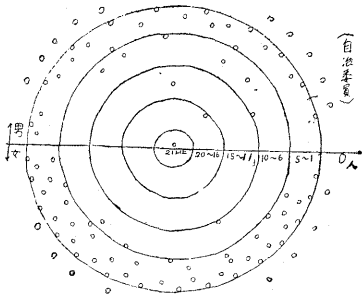


(遠足の企画)

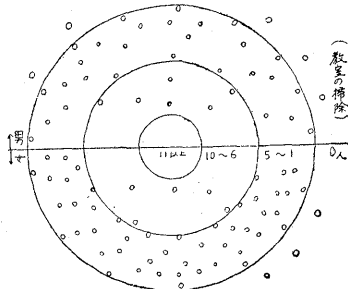
名前



児童の集団における位置(選択状況)



(自治会)



名前

(教室の掃除)

選択されているものほど円の内側に位置するように示してある。たとへば、

- たんじょう日に招待される者については、
- ・ だれからも招待されない者（○人） 男子一〇人、女子六人
 - ・ 一人から招待されている者 男子四人、女子八人
 - ・ 二人から招待されている者 男子八人、女子八人
 - ・ 三人かう招待されている者 男子五人、女子一六人
 - ・ 四人から招待されている者 男子二人、女子一〇人
 - ・ 五人から招待されている者 男子四人、女子二人
- 中略——
- ・ 十二人から招待されている者 男子一人等といったことを示す。

三、結果

紙数の関係、調査のねらいに示した第一項すなわち、「協力学級経営において、一、二組の児童の交友関係や、その他の自然的な集団形成に、学級の意識が、どの程度影響を与えているかの考察結果だけをのせることにする。

前記のケースフーテストにおいて、同じ組の者を選んだ児童数と、両組の者にわたって選んだ児童数の割合はつぎの通りである。

これによると、

1 男児においては、ほとんど、その集団形成に学級の意識が影響を与えていない。学年としての共通意識に結ばれて、その集団が形成されている。

しかし、自治委員の選挙という問題になると、学級（組）の意

自治委員		会食の遠足		清掃作業		生徒会の招待		ことば	
両組にわたる者	同じ組の者	両組にわたる者	同じ組の者	両組にわたる者	同じ組の者	両組にわたる者	同じ組の者	男	女
六四%	三六%	九七%	三%	七八%	二二%	八九%	一一%		
四六%	五四%	五九%	四一%	五七%	四三%	五四%	四六%		
五三%	四七%	七五%	二五%	六六%	三四%	六八%	三二%	計	

識が少しではあるができてきているようである。

2 女児においては、学級（組）の影響がその集団形成に男児よりあらわれているように思われる。しかし、それは、普通の学級経営（単一の担任による固定学級）にみられる集団形成と比較にならないほど少ないものである。—普通学級では他学級に及ぶということは非常に少ない。

以上の調査によって、協力学級システムにおける児童の集団は、特定の学級や組意識の影響を受けていないということが理解される。

一、二の保護者の声として示された児童の傾向は、或特定の児童の、組がえ直後（十月はじめ）にあらわれた傾向で、それから三ヶ月すぎた十二月中旬におけるこの調査では、その心配は、殆どなくなっているということが、明らかにされたように思う。